

私がとりくみたいこと

市民の願いにより添う市政へ

田中はじめはあなたと
実現をめざします。

■国保料1世帯1万円引き下げ

(約2億3400万円可能)

■介護保険の負担軽減

■子ども医療費は中学卒業まで

完全無料に(あと9000万円)

新型コロナ対策 さらなる支援を

- 保健所や医療・介護体制の抜本的強化
- くらしと営業への持続的な補償
- 授業料の減免や生活支援のための給付金の支援など、学生への支援強化
- 松江医療センター、玉造病院を守ります

■教育費の負担軽減を

■競争の教育から共生の教育へ転換

■島根原発再稼働反対。廃炉で雇用を増やす

■ムダな公共事業の削減を

■安保健法は廃止を

田中はじめさんに期待します

田中さんは、教職員組合の活動の中でも、人間の尊厳が傷つけられることに対し、いつも真正面からたたかってくられた信念の方です。

一人ひとりが大切にされる市政を実現するために頑張る田中はじめさんへご支援をお願いします。

国屋町 近藤 修

2012年1月に島根原発が停止して、9年を迎えようとしています。それでも電気は十分足りています。日本はいつ、どこで地震が起きるかわかりません。

住民の命と安全を第一に、「原発ノー」と言える田中さん、議会に出て働いていただきたいです。

石橋町 神門喜久子

政権交代で

子どもに恥ずかしくない政治を

3年半で皆様から多くの要望が寄せられました。「街路樹の根上がりで車いすが通れなかった歩道の整備」など解決したもの、取り組み継続中のもので様々です。皆様の声が届く市政めざし、引き続き頑張ります。

田中はじめさんを再び市政に
私たちも全力!



前衆院議員
大平よしのぶ



県議会議員
尾村 利成

新しい松江

2020年11・12月号外 日本共産党松江市委員会の政策をお知らせします。
発行/日本共産党松江市委員会 松江市袖師町3-6 Tel.(0852)24-2456

子どもたちの未来をきりひろく
市政の未来をきりひろく



コロナ危機のりこえ 誰にも優しい政治へ

～判断基準は市民の暮らし～

コロナ禍は、要るものと要らないものを教えてくれました。戦闘機もミサイルも、ウイルスに太刀打ちできません。原発は3密施設。クラスターが発生したらお手上げです。

軍事費を削って、くらし・福祉にまわせ! 原発ゼロの松江・日本を! 皆さまと力を合わせ、原発のない、命とくらし最優先の松江めざし、引き続き頑張ります。

田中 はじめ

松江市議会議員

プロフィール/1958年、松江市東出雲町生まれ。信州大学理学部物理学科卒。1982年より京都市、松江市、大田市、益田市で中学校教員。家族は妻、子。趣味はスローピング、釣り、読書。松江市古曾志町在住。

日本共産党

議場に立つと、願いをお寄せいただいた方々の顔が浮かんで、熱が入ります。

政治がもっと身近になれば、議会がない時は元気がいっぱい外を駆けまわっています。



毎議会質問して願いを届け、市政をチェック

出席した議会のすべてで質問に立ち、住民からお寄せいただいた願いをまっすぐ市政へ届けてきました。

質問席に立つと、自然と住民の顔が思い浮かび、市長や執行部との論戦にも熱が入ります。



みなさんと力をあわせ、こんなことを実現しました

- 新型コロナ危機をめぐって、ひとり親世帯への独自給付、持続化給付金への10万円上乘せ
- 子どもの医療費を中学卒業まで「入院無料」に拡充
- 全小中学校の普通教室へエアコン設置
- 入学後だった就学援助金の入学前支給を実現



議会が終わると開催するまちかど報告会

議会のたびに、街頭から議会報告してきました。定期的に議会報告チラシも作成し、市政の様子をお知らせしてきました。今後も続けていきます。



お困りごとの解決をめざして



進む黒田町の水害対策



新形コロナで地元業者から要望を聞く



外来生物（ミシシippアカミミガメ）の調査

お気軽にご相談ください。相談は無料です。

生活相談 連絡先 電話 070-1873-0082

私が大切にしていること

相手の意見に聴く耳を持つ姿勢

中学校教員の経験が私の原点

よく生徒に「おでん」のことを話しました。大根やこんにゃく、玉子はそれぞれ違います。互いの違いを責めるのではなく、自分の味を持ち寄ることで、いい出汁が出る。学校のクラスも、お互い尊重した上で力をあわせてこそ、クラスとして成り立つという話です。



リニアモーターカーの仕組みを教える

“戦争に反対せよ” 3人の「父」があとおし

私の父は、戦争で大陸から命の危険にさらされながら、家族を守って日本に帰ってきました。祖母は2人の息子を戦争で亡くし、母を養女として迎え、そこへ父が養子としてきました。「戦争に反対せよ」——私に命をくれた3人の「父」が、私の背中をあとおしています。



「戦争法廃止」署名運動の先頭に

原発のない安全・安心の松江を 政治を変えなければ子どもたちは守れない

私は福島第一原発から6kmの地点まで行きました。「帰還困難地域」という言葉一つで、町は地震の被害を受けたときそのまま、人気のない異様な静けさでした。松江を同じ惨禍にあわせてはなりません。「原発のない松江」を子どもたちへ手渡すこと、それは、私たち大人の責任ではないでしょうか。

2100名が参加。「原発ゼロ小泉元総理講演会」



私は第3会場場で小泉元総理の案内を務めました

田中はじめの歩んだ道



1958(昭和33)年に生まれ、こんなにミルクを飲んで育ちました(後の缶)。泣き虫で涙を拭くタオルが離せない子どもでした。



子どもに寄り添い頑張る先輩・共産党員の姿を見て、京都駅前での国鉄民営化反対集会に参加。共産党の隊列に加わり、旗を掲げて国鉄労働者を激励しました。



趣味のスローピング(スロウウォーキング)中です。駐車場から山頂まで往復小一時間が私のペースです。